

2023年4月25日

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ
株 式 会 社 三 菱 U F J 銀 行

「北海道カーボンニュートラルレポート」の発行および北海道との包括連携協定の改定と 「ゼロカーボン北海道」を推進する基金への寄付について

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ（代表執行役社長 ^{かめざわ ひろのり} 亀澤 宏規、以下 MUFG）は、本日、北海道におけるカーボンニュートラルのポテンシャルを示す「北海道カーボンニュートラルレポート」¹を発行するとともに、株式会社三菱 UFJ 銀行（取締役頭取執行役員 ^{はんざわ じゅんいち} 半沢 淳一 以下、当行）は、北海道（知事 ^{すずき なおみち} 鈴木 直道）と 2021 年 3 月 31 日に締結した包括連携協定²を改定し、「ゼロカーボン北海道や GX の促進」に関する事項を加え、北海道が設立を予定している「ゼロカーボン北海道」を推進する基金へ 5 億円の寄付を行うことを決定いたしました。

MUFG は、2021 年 5 月に公表した「MUFG カーボンニュートラル宣言」の下、2050 年までの投融資ポートフォリオのネットゼロの実現に向けてお客さまのカーボンニュートラルに向けて責任ある伴走を果たすため、一部の投融資を引き揚げるダイベストメントではなくエンゲージメントが重要だと考えています。その取り組みの一環として、MUFG は、2022 年 10 月に「MUFG トランジション白書³（以下、白書）」を発行し、日本やアジア、欧米など地域特性によってカーボンニュートラルへの道筋が異なること、産業間で密接に関連して取り組む必要があること、日本の温室効果ガスの 50%を占める「電気と熱」の排出量削減が最も重要であることを発信いたしました。また、白書の内容を欧米行政当局にも説明し、日本のカーボンニュートラル戦略の信頼性を示し続けること、また社会実装の進捗を定期的に発信していくことの重要性を確認いたしました。

北海道は、日本のカーボンニュートラル技術、特に次世代燃料、CCUS（CO₂ 回収・貯留・利用）、洋上風力、送配電、蓄電、ヒートポンプといった分野で、国内最大級のポテンシャルを持っております。その早期社会実装に重要となるポテンシャルを最大限発揮するべく、北海道自身も「ゼロカーボン北海道」の実現にコミットされ、カーボンニュートラル技術の導入や、カーボンクレジットの取引活性化などにも、意欲的に取り組まれております。この北海道の地の利を生かし、政策と金融の両面からの支援により、各技術を早期に社会実装させることが、日本全体のカーボンニュートラル化を加速させることに繋がるという考えの下、MUFG は、北海道への投資予見性を高め、北海道のカーボンニュートラルのポテンシャルを国内外に向けて発信する目的で「北海道カーボンニュートラルレポート」を発行いたしました。

さらに、当行は、北海道が設立を予定しているカーボンニュートラル技術の実装を推進する基金への寄付を通じ、地域に新しい産業を育てて根付かせていくと同時に、新産業を作り上げる人材育成の仕組みも作ることで、カーボンニュートラル化と地域経済の活性化を両立するモデルケースを北海道と連携し構築していきます。

MUFG は、自社のパーパス（存在意義）を「世界が進むチカラになる。」と定め、全てのステークホルダーが次へ、前へ進むチカラとなること、そのために全力を尽くすことを企業活動の指針としております。今後も北海道へのさまざまな金融支援を通じ、「ゼロカーボン北海道」の実現と、日本のカーボンニュートラルへ貢献してまいります。

[1] 「北海道カーボンニュートラルレポート」については、以下リンクを参照ください。

https://www.mufg.jp/dam/csr/report/other/hokkaido_cn_ja.pdf

[2] 北海道との包括連携協定については以下のリンクをご参照ください。

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/ksk/renkei_mitsubishiufj.html

[3] 「MUFG トランジション白書」については、以下リンクを参照ください。

<https://www.mufg.jp/english/csr/report/transition/index.html>

以 上